テーマ：「北方領土」（実践校）

上川管内　鷹栖町立北野小学校

■本実践のポイント（概要）

・第５学年社会科「日本の国土と世界の国々」「水産業のさかんな地域」の発展的な内容として授業を行いました。個人による情報収集→小交流→全体交流という学習形態を取り、児童が関わり合いながら学ぶ場を設定し、考えを深められるようにしました。多面的・多角的な視点から調べ、思考することによって、北方領土という社会的事象の特色や意味を理解することができるようにしました。

■ふるさと教育・観光教育の実践内容

①取組の様子

(1) 単元の目標

北方領土について、資料を関連付けながら多面的・多角的に調べ、自分たちができることについて考え、まとめて表現する活動を通して、北方領土が我が国固有の領土であることについて理解できるようにするとともに、学習したことをもとに自分の考えを深め、北方領土について興味・関心をもち、北方領土の未来の姿に向けて取り組んでいこうとする態度を養う。

【ロイロノートを活用した授業】

(2) 本単元で育てたい子どもの姿

・問いをもち続け、とことん調べ・考え・まとめ、自分の可能性に気付く姿

・ふるさと北海道や日本が抱える問題を認識し、友達と情報や考えを交流しながら、将来に向けて前向きな解決策を伝え合う姿

・地域の強みと弱みを主体的に評価し、地域の将来のために、自分の生き方をマネジメントしようとする姿

【１１月１１日（金）】
問い「北方領土、これからどうする？」のまとめ

わたしは、『北方領土学習』を通して、ロシアに北方領土を「返せ、返せ」というのではなく、お互いにきちんと話し合った方がいいと思いました。」

その理由は、日本の領土なのにロシア人が占拠するなんて住んでいるなんておかしい！、と思うかもしれないけど、ロシアも子供が生まれて北方領土を故郷をしている、子供もいるからロシア側も簡単には日本に帰すことは難しいからです。

【授業実施後の児童の感想】

(3) 情報の収集とまとめ、交流

下記の３つの資料から調べ、「日本政府」「ロシア政府」「元島民」「現島民」それぞれの立場に立って考えたことをロイロノートにまとめ、交流しました。

・小学生用北方領土学習資料 2022 年版「北方領土ってどんなところ？」（公益社団法人北方領土復帰期成同盟）

・「３分で分かる北方領土問題」（独立行政法人北方領土問題対策協会）

・「なるほど！なっとく！北方領土 ～ 北方領土返還実現に向けて」（独立行政法人北方領土問題対策協会）

(4) 視点の変換による新たな思考

新たな資料として、北海道新聞デジタル版「国後島の現状の写真（中央広場でロシア人の親子の写真）」を提示し、現島民の立場も考えさせることで、多面的・多角的な話合いができました。

②児童の振り返り「北方領土、これからどうする？」

・私は、学習を通して、北方領土に住んでいた人たちも、今、北方領土に住んでいるロシアの人たちも、北方領土が「故郷」だということがよく分かりました。

・私は、学習を通して、日本人とロシア人は仲よくなることが大事だと思いました。ウクライナとの戦争もそうだけれど、仲を深めれば、ロシア人はウクライナ人とも日本人とも仲よくなる気がします。

■取組の成果（〇）と課題（●）

〇　北方領土の位置や島の名前など既習事項の確認だけでなく、人々の生活の様子、歴史、返還運動など、北方領土について詳しく知ることができました。

〇　多角的な視点から考えることにより、北方領土問題を自分事として考え、身近に感じていました。

●　本単元構成では、膨大な資料から取捨選択し子どもに提示しました。しかし、全てが日本側の立場からのものばかりで、ロシア側の立場からまとめられた資料を収集できませんでした。より、児童が多面的・多角的な視点で考えることができるようにするために、多様な資料を収集する必要があります。